

ライフスタイルに関する大学生の意識

——志向寿命との関連——

藤 沢 邦 彦・栗 原 淳

The Consciousness of the students about life style

——on longevity——

Kunihiko FUJISAWA and Atsushi KURIHARA

We examined consciousness about the life expectancy which was forecasted and hoped by college students, and the life-style concerning about their senses of the life span.

The survey on the consciousness was conducted with 423 college students (male:261, female:162) by the questionnaire method.

The results were as follows;

1) There were 60 males (23.0%) and 20 females (12.3%) students in the intended long expectancy group of life span. And 123 males (47.1%), 73 females (45.1%) belonged to the intended short expectancy. So both males and females intended short life.

2) The group intended short life, especially men, tended to look upon a 'longevity' as a 'vice'. And because of the sense of values, intended short life group assumed a negative attitude to their way of thinking and behavior concerning about old age, preparing for death or way of death etc.

3) The intended short life group, forecasted that the Japanese life expectancy would become short, and it is not only own life span but also social tendency of it.

4) The group of longevity was more interested in health related matters of daily livings. Also they tended to attach importance to the leading subjects, such as 'health', 'family-home' and etc, in future life.

Key words: Consciousness examinations, Life expectancy, Life-style, Health education

I. 諸 言

われわれは、これまでに寿命や死因についての大学生の意識調査を実施し、彼らの予測寿命や望む寿命の平均がわが国の平均寿命をかなり下回っていることや、死因に対する意識が非現実的である者が多いことなどを指摘してきた¹⁾²⁾。

ところが、わが国の人口の高齢化は急速に進んでおり、政府は昭和61年6月6日に「長寿社会対策大綱」を閣議決定し³⁾、厚生省は、昭和63年度か

ら10年計画で「アクティブ・エイティ・ヘルスプラン」を実施し、高齢者の健康充実生活づくりをすすめることによって、高齢化社会に対応しようとしている⁴⁾。社会のこのような状況に対し、大学生の寿命に対する考え方はあまりにも消極的であるように思われる。各自の、そして社会の長期化するライフサイクルに対応しうるライフスタイル⁵⁾の確立には、国民の望ましい寿命観⁶⁾¹⁾が不可欠である。いったん確立されたライフスタイルを

変えることが容易でないことを考慮すると、学校における保健教育等において、望ましい寿命観に基づくライフスタイルの確立をはかることが必要であろう⁷⁾。

ここでいう寿命観とは、寿命に関わる経験⁸⁾、知識、認識、感情などから形成される寿命についてのある考え方のことであり、ライフスタイルの確立・実践に際し、多々ある局面において、その意志決定に影響を及ぼすものと考えられる。

われわれは、大学生の寿命観の実態について調査するとともに、彼等のライフスタイルの確立に関わると思われる意識の実態を合わせて調査し、その関連について志向寿命を中心に検討した。その結果、大学保健教育等において考慮したい二、三の知見を得たので報告する。

II. 研究方法

1. 調査対象：都内某私立大学文科系、第1学年男子学生261名、及び茨城県水戸市内某私立短期大学文科系、第1学年女子学生162名、合計423名。

2. 調査時期：昭和63年7月

3. 調査方法：両大学において保健体育科目の「体育講義」の時間を利用し、記名で質問紙による調査を行なった。

4. 調査項目：以下の項目についてA. は自由記入で、B. C. は多肢選択法によって調査した。選択肢は事前に同質の大学生に実施した自由記入形式によるアンケート「私の寿命」、及び「私のライフスタイル」を参考に作成した。

A. 志向寿命（寿命観やライフスタイルに関する意識が志向寿命によって異なると考えられる）

Q 1. 自分の予測寿命

Q 2. 自分の望む寿命

B. 寿命観の実態（人によって寿命に関わる事柄についての考え方が異なると考えられる）

Q 3. 長寿に対する考え方

Q 4. 老後や死の準備に対する考え方

Q 5. 死に方や死ぬ時期の変更に対する考え方

Q 6. わが国における平均寿命の男女差の理由

Q 7. わが国における平均寿命の将来予測

Q 8. わが国における平均寿命の男女差の将来予測

Q 9. 女子学生における短命志向の理由

C. ライフスタイルに関する意識調査（人によって、自分の現在のライフスタイルと関連して

いたり、今後のライフスタイルに影響を与えるような事柄についての意識が異なると考えられる）

Q 10. 望む死に方や寿命への努力

Q 11. 配偶者の選択に際しての寿命差への配慮

Q 12. 日常生活における関心事

①体育講義⁹⁾ ②大学での学問研究 ③配偶者の選択 ④職業の選択 ⑤親の老後の面倒 ⑥自分の寿命や死因 ⑦避妊法 ⑧エイズの流行 ⑨健康食品や健康法 ⑩祖父母の健康 ⑪体力の向上 ⑫嫌煙権

Q 13. 将来の生活に対する重視度

①仕事 ②家族・家庭 ③趣味・娯楽 ④教養 ⑤健康

5. 分析方法

寿命志向を決定するに当たり、わが国の平均寿命（昭和60年の完全生命表では男74.78才、女80.48才）をもとに年齢区分の基準を設定し、予測寿命と望む寿命をそれぞれ3段階に区分した。その区分は、男子学生では75才を基準としてそれを「平均予測」、76才以上を予測した場合には「長寿予測」、74才以下を「短命予測」とした。同様に、望む寿命では「平均願望」、「長寿願望」、「短命願望」として区分した。また、女子学生については80才を基準とし、予測寿命、望む寿命それぞれについて、同様の区分を行なった。その結果、長寿予測をした者は男子32.2%、女子25.9%、平均予測をした者は男子3.4%、女子21.6%、短命予測をしたものは男子64.4%、女子52.5%となった。そして、長寿願望については男子34.1%、女子15.4%、平均願望は男女それぞれ10.7%、23.5%、短命願望は同じくそれぞれ55.2%、61.1%となった。

そこで、長寿予測×長寿願望の者を「長寿志向群」（男子60名23.0%、女子20名12.3%）、短命志向×短命願望の者を「短命志向群」（男子123名47.1%、女子73名45.1%）とし、この両群と寿命観、ライフスタイルに関する意識との関連性についてクロス集計による分析を試みた。両群、及び男女間の比較にはカイ二乗検定を用いた。なお、複数回答を求めたものについては、各項目ごとの比較を行った。

その他の群については、長寿予測×平均願望が男子1.9%、女子4.9%、長寿予測×短命願望が男子7.3%、女子8.6%、平均予測×長寿願望が男子0.4%、女子1.9%、平均予測×平均願望が男子2.3%、女子12.3%、平均予測×短命願望が男子

0.8%, 女子7.4%, 短命予測×長寿願望が男子10.7%, 女子1.2%, 短命予測×平均願望が男子6.5%, 女子6.2%となった。

III. 結果, 及び考察

1. 寿命観の実態

(1) 長寿に対する考え方

長寿に対する考え方については、長寿は美德だと思いかどうか質問した。表1のように、長寿志向、短命志向の両群ともに「どちらともいえない」とした者が60%と多かったが、男子学生の場合に両群間で有意な差がみられた。つまり、長寿志向群は長寿を「美德」としてとらえ、短命志向群はその反対に「悪徳」と捉えていた。女子学生の場合、両群間で有意な差はみられなかったが、長寿志向群において、やはり長寿を「美德」と捉えている傾向がみられた。また、短命志向群の男女間において有意差がみられ、特に男子の学生の方が長寿を悪徳と捉えていることがわかった。

わが国では、9月15日を「敬老の日」として祝日と定め、この日全国多数の市町村において高齢者に対し、敬老金を贈ったり、表彰したりしている。また、各家庭においても米寿(88才)等には、高齢を祝うしきたりがある。このような社会における長寿に対する価値付けと、学生の長寿に対する考え方にはかなり隔たりがあるといえる。寿命はただ長ければよいというものではないが、健康的で充実した生活によってのみもたらされる長寿こそ、われわれにとって目指すに値するものであろう。

(2) 老後や死の準備に対する考え方

自分の老後や死の準備に対しては、今からそれを考えるべきかどうか質問した。表2のように、男子学生の場合、長寿志向群では「当然考えるべきである」と「できれば考えた方がよい」と回答したものを合わせると約60%の者がその必要性を意識しているのに対し、短命志向群では約50%の者が「まだ考えても仕方がない」と回答し、両群

Table 1. The Way of Thinking about Long Expectancy

Group			1	2	3	4	5	
Intended long expectancy	M	%	30.0	60.0	8.4	1.7	—	**** P < 0.001
	60	n	18	36	5	1	0	
	F	%	25.0	65.0	10.0	—	—	
	20	n	5	13	2	0	0	
Intended short expectancy	M	%	6.5	61.8	29.3	2.4	—	*** P < 0.005
	123	n	8	76	36	3	0	
	F	%	12.3	76.7	8.2	1.4	1.4	
	73	n	9	56	6	1	1	

1. Virtue 2. Moderate 3. Vice 4. Others 5. N.A.

Table 2. The Way of Thinking about 'Old age' and 'Death'

Group			1	2	3	4	5	
Intended long expectancy	M	%	16.7	43.3	35.0	5.0	—	* P < 0.05
	60	n	10	26	21	3	0	
	F	%	15.0	40.0	40.0	5.0	—	
	20	n	3	8	8	1	0	
Intended Short expectancy	M	%	13.0	32.5	51.2	2.4	0.8	
	123	n	16	40	63	3	1	
	F	%	16.4	43.8	32.9	5.5	1.4	
	73	n	12	32	24	4	1	

1. Must think 2. Better think 3. Not necessary to think
4. Others 5. N.A.

間で有意差がみられた。つまり、長寿志向群の方が短命志向群より老後や死に対して積極的な考え方をしていたといえる。

また、両群の男女間では有為な差がなく、ほぼ同じ傾向を示した。大学生の時期は人生の中でも、死亡率の低い時期ではあるが、最近の成人病の若年化傾向や、大学生の国民年金への加入問題²⁴⁾等を考慮すると老後や死の問題を等閑視してよい状況にはない。

(3) 死に方や死ぬ時期の変更に対する考え方

死に方や死ぬ時期の変更については、自分の力(努力等)によってそれが可能と思うかどうか質問した。表3のように、全体としては「かなり変えられる」と「少しは変えられる」の変更の可能性を認めているものが多かった。また、「ほとんど変えられない」(長寿志向群：男子18.3%，女子25.0%，短命志向群：男子36.6%，女子30.1%)とした者は短命志向群にやや多い傾向を示したが、長寿志向と短命志向の両群間において有意な差はみられなかった。

また、短命志向群の男女間では「かなり変えられる」(男子26.0%，女子12.3%)とした者が男子に多く、有意差がみられた。

大学生にとって、自分の寿命や死因の問題が身近でないだけに、生活の仕方によって寿命を延長したり、死因を不慮の事故や成人病等から老衰へと変え得る可能性を具体的に示すような教育が必要であろう。

(4) わが国における平均寿命の男女差の理由

わが国の平均寿命の男女差、つまり女性の方が男性より長寿である理由をどの様に捉えているか

を質問したものが表4である。その結果、全体的には「女性にはもともと生命力が備わっている」

(長寿志向群：男子53.3%，女子65.0%，短命志向群：男子48.8%，女子43.8%)と「男性の方がストレスにさらされている」(長寿志向群：男子63.3%，女子30.0%，短命志向群：男子63.4%，女子32.9%)が多く、男子では、ついで「男性の方が不節制である」(長寿志向群：31.7%，短命志向群：34.1%)、「女性は適応性が高い」(長寿志向群：30.0%，短命志向群：23.6%)が、女子では、「女性は適応性が高い」(長寿志向群：10.0%，短命志向群：24.7%)、「女性は家庭にいて健康的な生活ができる」(長寿志向群：20.0%，短命志向群：9.6%)の回答がやや多かった。

また、長寿志向と短命志向の両群間において、回答数は多くなかったが、「女性はいつも健康に気を配っている」(長寿志向群：18.3%，短命志向群：6.5%)の項目で、長寿志向の男子の方が、短命志向の男子よりも、女性は健康にいつも気配りをしているから長寿であると考えており、この項目に有意な差がみられた。さらに、長寿志向群の男女を比較すると「ストレス」、「健康への配慮」の項目において女子学生より男子学生の方が有意に多く回答していた。短命志向群でも同様に「ストレス」、「不節制」において男子学生が有意に多く回答していた。

つまり、女性の生活が男性よりストレスが少ないことや節制のある生活、健康への配慮といった日常生活行動をとっていることや、生命力や適応性などの生理的特徴を女性の長寿理由としてあげていた。この点に関しては、渡辺²⁵⁾が女性の長生き

Table 3. The Way of Thinking about Changeableness of 'Way of death' and 'Time of death'

Group			1	2	3	4	5
Intended long expectancy	M	%	31.7	48.3	18.3	—	1.7
	60	n	19	29	11	0	1
	F	%	25.0	45.0	25.0	5.0	—
	20	n	5	9	5	1	0
Intended Short expectancy	M	%	26.0	36.6	36.6	0.8	—
	123	n	32	45	45	1	0
	F	%	12.3	54.8	30.1	1.4	1.4
	73	n	9	40	22	1	1

* p < 0.05

- 1. Great changeable
- 2. A little changeable
- 3. Non-changeable
- 4. Others
- 5. N.A.

Table 4. Reasons of Female's Longevity (Multi-answered)

Group		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Intended long expectancy	M %	53.3	15.0	63.3	31.7	11.7	21.7	18.3	30.0	15.0	1.7
	60 n	32	9	38	19	7	13	<u>11</u>	18	9	1
	F %	65.0	10.0	30.0	5.0	5.0	20.0	5.0	10.0	15.0	10.0
	20 n	13	2	6	1	1	4	1	2	3	2
				**	*			*			
Intended short expectancy	M %	48.8	16.3	63.4	34.1	7.3	18.7	6.5	23.6	22.0	3.3
	123 n	60	20	78	42	9	23	<u>8</u>	29	27	4
	F %	43.8	8.2	32.9	5.5	8.2	9.6	6.8	24.7	13.7	2.7
	73 n	32	6	24	4	6	7	5	18	10	2
			**	****							

* P < 0.05
 ** P < 0.01
 *** P < 0.001

*

1. Power of life 2. Danger 3. Stress 4. Moderation
 5. Protection 6. Home life 7. Attention to health
 8. Adaptability 9. Life values 10. Others

Table 5. Forecast of Japanese Life Expectancy in Future

Group		1	2	3	4
Intended long expectancy	M %	65.0	18.3	13.3	3.3
	60 n	<u>39</u>	<u>11</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
	F %	55.0	40.0	5.0	—
	20 n	11	8	1	0
Intended short expectancy	M %	37.4	30.1	27.6	4.9
	123 n	<u>46</u>	<u>37</u>	<u>34</u>	<u>6</u>
	F %	45.2	32.9	20.5	1.4
	73 n	33	24	15	1

 P < 0.005

1. Lengthen 2. Unchangeability 3. Shorten 4. Others

についての本質的な研究が成されていないことを指摘しているが、生活行動上の男女差は否定できないものがあるといえた。

(5) わが国における平均寿命の将来予測

わが国における平均寿命が将来的にどうなっていくと考えているかを質問したのが表5である。その結果、長寿志向群の方が「延びていく」と回答した者が、短命志向群より全体的に多く、短命志向群では「現状維持」や「短くなっていく」とした者が多かった。しかし、有意差がみられたのは男子学生についてのみであった。

これらのことから、短命志向群は、自分の寿命だけではなく、社会的な傾向としても短命を予測していた。今堀和友は、今後も医学の進歩等により人の最大寿命(125才)に近づくとであろう、これは確かにめでたいことには相違ないが、そう手放

して喜んでみられない³⁾、と高齢者の医療問題に触れて言っているが、やはり延びることを前提にした構えが必要ではなからうか。

(6) わが国における平均寿命の男女差の将来予測

わが国の平均寿命の男女差が将来どうなると考えているのかを質問したところ、表6のように、「変化なし」(長寿志向群:男子48.3%,女子70.0%,短命志向群:男子54.5%,女子60.3%)とするものが多く、特に女子学生にその傾向がみられたが、両群間、及び男女間に有意差はなかった。ここで、寿命の男女差が「広がる」あるいは「狭まる」において、男性の平均寿命が女性に近づいていくのか、反対に女性の平均寿命が男性に近づいていくのか、その変化傾向や理由までは予測させなかったが、特に女子の場合、ライフスタイルが就労人口の増加等によって変化し、男子と

Table 6. Forecast Life Expectancy in Male and Female in Future

Group			1	2	3	4	5
Intended long expectancy	M	%	10.0	48.3	40.0	1.7	—
	60	n	6	29	24	1	0
	F	%	10.0	70.0	20.0	—	—
	20	n	2	14	4	0	0
Intended short expectancy	M	%	11.4	54.5	32.5	1.6	—
	123	n	14	67	40	2	0
	F	%	11.0	60.3	27.4	—	1.4
	73	n	8	44	20	0	1

1. Lengthened 2. Unchangeable 3. Shortened
4. Others 5. N.A.

変わらなくなる事等がどこまで考慮されたか疑問であった。

(7) 女子学生における短命志向の理由

男子学生に比べて、女子学生の方がより短命志向であることが、すでに明らかになっていることを明記したうえで、女子学生がなぜ短命志向なのか、その理由を質問したところ、表7のように、長寿志向群では男子学生の場合「老醜をさらしたくない」とした者が80%と最も多く、ついで「老化や病気で苦しみたくない」(51.7%)、「老化や病気で回りに迷惑をかけたくない」(31.7%)、「老後に夢や希望を持ってない」(26.7%)となった。女子では、「老醜をさらしたくない」と「回りに迷惑を

かけたくない」が両方ともに75%と最も多く、ついで「夫より早く死にたい」(25.0%)、「経済的見通しがたたない」(25.0%)となった。

男女間で有意差がみられたのは、「回りに迷惑をかけたくない」と「経済的見通しがたたない」の2項目であり、どちらも女子学生が多く回答していた。

短命志向群では、男子の場合、長寿志向群と同様「老醜をさらしたくない」が69.9%と最も多く、以下、順位は異なるが上位にあげられた項目は長寿志向群と同じであった。女子では、やはり「回りにの人に迷惑をかけたくない」とした者が65.8%と最も多く、男子同様長寿志向群と同じであった。

Table 7. Reasons for Intended Short Expectancy in Female (Multi-answered)

Group			1	2	3	4	5	6	7	8
Intended long expectancy	M	%	80.0	51.7	26.7	31.7	8.3	13.3	5.0	1.7
	60	n	48	31	16	19	5	8	3	1
	F	%	75.0	60.0	20.0	75.0	25.0	20.0	25.0	—
	20	n	15	12	4	15	5	4	5	0
Intended short expectancy	M	%	69.9	34.1	30.1	35.8	8.9	16.3	13.0	1.6
	123	n	86	42	37	44	11	20	16	2
	F	%	52.1	53.4	12.3	65.8	28.8	13.7	9.6	2.7
	73	n	38	39	9	48	21	10	7	2
			*	**	***	****	****			

* p < 0.05
** p < 0.01
*** p < 0.005
**** p < 0.001

- *
- 1. Ugliness of old age
 - 2. Suffer from senility or disease
 - 3. No dream and hope in old age
 - 4. Give trouble with senility or disease
 - 5. Death of husband
 - 6. Treat the old unkindly
 - 7. Unstability of economy in future
 - 8. Others

しかし、男女を比較すると、「老人が増えて大切にされない」、「経済的見通しがたたない」の2項目以外はすべて有意差があり、男子の場合は「老醜をさらしたくない」、「老後に夢や希望がない」といった個人の充実感を老後に得られないことを特に理由として考え、女子の場合は病気等の苦痛からの回避や夫や家族との人間関係上の悪い反響を避けたいことを理由としてあげていた。

以上の寿命観から、短命志向群の方が長寿志向群より老後や死そのもの、あるいは老後や死への過程に対する考え方において消極的な傾向がみられた。その背景には、彼らが老人性痴呆、寝たきりなど高齢者自身の健康問題や生きがいのない老後といった社会問題、さらに、経済的問題に少なからず不安や恐れを持っているためと思われる。それに加えて、老後や死に対する無知、無関心が長寿志向群よりも根深いのではないかと考えられた。また、その傾向は、女子学生より男子学生の方により見られた。

方により見られた。

2. ライフスタイルに関する意識

(1) 望む死に方や寿命への努力

望む死に方や寿命への努力については、今から努力しているかどうかを質問したが、表8のように長寿志向、短命志向の両群ともに「殆ど努力していない」(長寿志向群：男子65.0%，女子80.0%，短命志向群：男子84.6%，女子83.6%)を回答した者が大部分を占めた。しかし、男子学生では「少しは努力している」(長寿志向群：28.3%，短命志向群：9.8%)とした者が長寿志向群に多く、逆に「殆ど努力をしていない」(長寿志向群：65.0%，短命志向群：84.6%)者が短命志向群に有意に多かった。また、長寿志向群の男女間に有意差がみられ、女子には努力をしているものが殆ど見られなかった。

長寿志向群において、男女とも「殆ど努力していない」者が多く、特に女子にその傾向が多いこ

Table 8. Effort for Hoped 'Way of Death' or 'Life Span'

Group			1	2	3	4	5	
Intended long expectancy	M	%	3.3	28.3	65.0	—	3.3	
		n	2	17	39	0	2	
	F	%	5.0	—	80.0	15.0	—	
		n	1	0	16	3	0	
	Intended short expectancy	M	%	0.8	9.8	84.6	4.1	0.8
			n	1	12	104	5	1
F		%	1.4	8.2	83.6	1.4	5.5	
		n	1	6	61	1	4	

* p < 0.05
* p < 0.05

1. Great effort 2. A little effort
3. Effortless 4. Others 5. N.A.

Table 9. Consideration about the Difference of Life Span between Male and Female in choosing a Spouse

Group			1	2	3	4
Intended long expectancy	M	%	1.7	25.0	73.3	—
		n	1	15	44	0
	F	%	5.0	50.0	45.0	—
		n	1	10	9	0
Intended short expectancy	M	%	—	17.9	81.3	0.8
		n	0	22	100	1
	F	%	6.8	39.7	52.1	1.4
		n	5	29	38	1

p < 0.001

1. Yes 2. A little 3. No 4. Others

とは、一般に女子が長寿であることと考え合わせると矛盾している。これは、女子の寿命が個人の努力と関係ないことを示していると言うよりも、「努力」に対する意識が男女間で異なるためと考えられたが、今後さらに追究が必要である。

また、短命志向群に、「少しは努力している」と「かなり努力している」者を合わせると、男女とも約10%いたことは、もし、文字どおり短命のための努力が行なわれているとしたならば、早急な対策が必要であり、この点においても追究したい。

(2) 配偶者の選択に際しての寿命差への配慮

配偶者を選択するとき、互いの寿命差を考慮する^{*)}かどうかを質問したところ、表9のように、長寿志向及び短命志向の両群間において有意差はみられなかった。しかし、短命志向群の男女間を比較すると、男子学生は寿命差を配慮しないもの(73.3%)が多く、女子学生では、「考慮する」と「考慮しない」とがほぼ半々になり、考え方に

有意な差があった。長寿志向群でも、有意差はなかったが、男女間に同様の傾向がみられた。

考慮すると言うことは必ずしも一緒に死ぬるのであろう配偶者を選ぶということではなく、女子が男子より長寿であることを意識したライフスタイルが確立されるかどうか結びつくと考えられた。

(3) 日常生活における関心事

日常生活において、彼らが健康や寿命に関わる事柄をどの様に捉えているのか、その関心度を見たのが表10である。生活における関心事は、当然ライフスタイルに影響を与える要因であり、大学生の生活ぶりがそこからうかがえる。

関心度が特に高かったのは、「職業の選択」で、両群の男女ともに90%を越えていた。以下、男子学生では、「体育講義」(長寿志向群：88.3%，短命志向群：82.1%)、「大学の学問研究」(長寿志向群：86.7%，短命志向群：88.7%)、「体力の向上」(長寿志向群：91.6%，短命志向群：87.0%)に

Table 10. Matter of Concern in Life (Multi-answer : %)

Matter	Intended long expectancy		Intended short expectancy		
	MALE (60)	FEMALE (20)	MALE (123)	FEMALE (73)	
1. Lecture of health education	88.3	55.0	82.1	47.9	
		***		****	
2. Study in university	86.7	30.0	88.7	46.6	
		****		****	
3. Choice of a spouse	75.0	85.0	75.6	90.4	
				**	
4. Choice of a occupation	93.4	100.0	94.3	93.2	
5. Care of old Parent	78.3	85.0	83.8	80.8	
6. Own life and cause of death	58.3	65.0	49.6	65.8	
				*	
7. Method of contraception	<u>51.7</u>	85.0	<u>70.8</u>	63.0	*
		**			
8. Prevalence of AIDS	63.3	65.0	69.1	64.3	
9. Healthfull food and method of keeping and promoting health	<u>71.7</u>	80.0	<u>51.2</u>	71.2	**
				*	
10. Health of a grandfather or a grandmather	<u>73.3</u>	85.5	<u>61.0</u>	75.4	*
				*	
11. Develop of physical strength	91.6	85.0	87.0	75.3	
12. Non-smoker's right	<u>68.3</u>	60.0	<u>47.2</u>	58.9	***

(* P < 0.05, ** P < 0.01, *** P < 0.005, **** P < 0.001)

特に関心が高く、女子学生では、「配偶者の選択」(長寿志向群：100.0%，短命志向群：93.2%)、「親の老後の面倒」(長寿志向群：85.0%，短命志向群：80.8%)に関心が高かった。

長寿志向、短命志向の両群間を比較すると、男子学生の「避妊法」(長寿志向群：51.7%，短命志向群：70.8%)、「健康食品や健康法」(長寿志向群：71.7%，短命志向群：51.2%)、「祖父母の健康」(長寿志向群：73.3%，短命志向群：61.0%)、「嫌煙権」(長寿志向群：68.3%，短命志向群：47.2%)の4項目で、有意差がみられた。

「避妊法」については短命志向の男子学生の方が、長寿志向群の男子学生より関心が高かったほか、は長寿志向群の方が短命志向群よりも健康に直接関わることへの関心が高かった。

また、長寿志向群の男女間を比較したところ「体育講義」(男子88.3%，女子55.0%)、「大学での学問研究」(男子86.7%，女子30.0%)、「避妊法」(男子51.7%，女子85.0%)において有意差がみられ、女子学生は、「体育講義」や「大学での学問研究」には特に関心が低かった。「避妊法」については反対に男子学生の方が関心が低かった。短命志向群では、「体育講義」(男子82.1%，女子47.9%)、「大学での学問研究」(男子88.7%，女子46.6%)、他に「配偶者の選択」(男子75.6%，女子90.4%)、「自分の寿命や死因」(男子49.6%，女子65.8%)、「健康食品や健康法」(男子51.2%，女子71.2%)、「祖父母の健康」(男子61.0%，女子75.4%)の6項目で有意差がみられ、やはり女子学生の方が「体育講義」，「大学での学問研究」には関心が低かった。

以上の事から、4年制大学の男子学生の関心が学問研究などに高く、短期大学の女子学生の関心は、配偶者の選択などに高い傾向がみられ、ライフスタイルの確立を目指す保健教育で配慮すべき点が明らかになった。

(4) 将来の生活に対する重視度

彼らが将来、社会人になったときに主な生活の中心となる事柄について、重視するかどうかを質問した結果、表11のように、長寿志向、短命志向の両群間において、男子学生の「健康」(長寿志向群：80.0%，短命志向群：52.8%)に対する重視度は、明らかに長寿志向群の方が短命志向群より高く、有意な差がみられた。他の項目では、有意差はないものの、すべて長寿志向群の方が重視す

Table 11. Important Matter of Future Life

Matter	Intended long expectancy		Intended short expectancy	
	M (60)	F (20)	M (123)	F (73)
Occupation	68.3	55.0	67.5	67.1
Family・Home	86.7	75.0	74.8	90.4
Interest・Hobby	85.0	45.0	79.7	61.6
Culture	63.3	30.0	51.2	35.6
Health	<u>80.0</u>	60.0	<u>52.8</u>	67.1

(* P < 0.05, ** P < 0.01)

る割合が高かった。これらの項目はいずれも、健康充実・長寿を目指すようなライフスタイルの確立に欠かせないものであり、全般に長寿志向群が望ましい傾向にあった。しかし、女子学生では有意な差はないものの、短命志向群の方がどの項目においても重視度が高かった。

男女間を比較してみると、長寿志向群では「趣味・娯楽」(男子85.0%，女子45.0%)、「教養」(男子63.3%，女子30.0%)の2項目において有意差がみられ、どちらも男子の重視度が高かった。また、短命志向群では、「家族・家庭」(男子74.8%，女子90.4%)の項目においてのみ有意差があり、女子の方が男子より、重視度が高かった。

また、各項目のとり上げ方をみると、「仕事」が「家族・家庭」や「趣味・娯楽」より下位にあげられ、「仕事」に対する重視度が低かった。

IV. 結 論

大学一年生に、予測寿命と望む寿命を含めた寿命観と、それらに関わるとされるライフスタイルについての意識調査を行なった結果、次のようなことが明らかになった。

1. 予測寿命と望む寿命の関連から、大学生の寿命志向を区分した結果、長寿志向群は男子の23.0% (60名)、女子の12.3% (20名)、また、短命志向群は男子の47.1% (123名)、女子の45.1% (73名)となり、男女ともに短命志向が多かった。

2. 短命志向群は、「長寿」を「悪徳」として捉える傾向があり、特に男子学生に顕著であった。また、そのような価値意識から、短命志向群には老後や死の準備、あるいは死に方等に関わる考え

方や行動が、長寿志向群に比べ消極的であった。

3. 短命志向群は、長寿志向群よりわが国の平均寿命が短くなると予測し、自分の寿命だけでなく、社会的な傾向としても寿命が現在より短くなると考えていた。

4. 長寿志向群は、短命志向群より日常生活での健康に関わる事柄に、より多く関心を持っていた。また、男子学生の場合、将来の生活における「健康」や「家族・家庭」等の事柄にも、長寿志向群の方がより重視している傾向があった。

今後さらに、健康で、豊かな長寿に結びつくライフスタイルの確立に関与すると思われる大学生の意識を、より多方面から把握、検討することによって、大学保健教育の教育内容の充実をはかる必要があると考える。

なお、本研究の概要は、第35回日本学校保健学会において発表した。

注 釈

注1) 望ましい寿命観とは、寿命に関わる事項について、科学的に正しくかつ社会通念上望まれる考え方であり、長寿に関していうならば可能な限り健康充実長寿を目指すような考え方である。

注2) 寿命に関わる経験とは、人生の終焉がなんらかの形で実感される経験の事であり、重い疾患や傷害の経験、身近な人の死、あるいはそれに類似した模擬体験等がある。

注3) 体育講義を関心項目としたのは、調査対象の両大学がいわゆる保健理論を体育講義の名称で実施しており、大学生が健康や寿命、ライフスタイルについて学ぶのは主としてこの体育講義であることによる。

注4) 1988年11月26日朝日新聞、朝刊によると「厚生

省は、国民年金の適用範囲を拡大し、現在、任意加入の20才以上の学生について、加入を義務づける方針を固めた。(略)強制加入によると、63年度水準で国民年金の一般加入者と同額の月7700円の掛金(保険料)を支払うことになる。(略)」と報道されている。

注5) 互いの寿命を考慮するとは、「仮に平均結婚年齢(昭和61年)男28.3才、女25.6才の夫婦が平均寿命(昭和61年)男75.23才、女80.93才まで生きたとすると、妻は夫の死後8.4年間は一人で生きることになる」ということを配偶者を選択するときに考慮するということであり、老後への構えが期待できる。しかし、考慮しないという者には老後のその事態への構えは期待できない。

参 考 文 献

- 1) 藤沢邦彦、栗原淳：某大学学生の「死」に対する意識、筑波大学体育科学系紀要, 10; 191-201, 1987
- 2) 藤沢邦彦、栗原淳：生きがいと寿命に関する意識調査、筑波大学体育科学系紀要, 11; 315-322, 1988
- 3) 今堀和友：これからどうなる—日本・世界・21世紀—, 岩波書店, p.74, 1983
- 4) 金子哲也：健康とはなにか、勝目卓朗編生命保健シリーズIII, 新興医学出版社, p.43, 1987
- 5) 厚生統計協会：国民衛生の動向, Vol35-9, p.90, 1988
- 6) 森昭三：保健科教育の展開, 学校保健研究, 30-6, 保健研究社, p.258, 1988
- 7) 小野寺伸夫：健康づくりへの政策, メディカルフレンド社, p.190, 1987
- 8) 新潮45・編：死ぬための生き方, 新潮社版, 1988
- 9) 渡辺淳一：わたしの女神たち, 角川書店, 170-172, 1981
- 10) 余暇開発センター：インディビジュアル・ヘルス・プロモーション・システムの開発研究, 1988